

第 15 回 繫離船作業に係る安全問題検討会 議事概要

日 時：令和 8 年 9 月 29 日(火)16 時 30 分～18 時 00 分

場 所：国土交通省港湾局 10F 会議室

議事1 繫離船作業の安全対策について

(説明：日本繫離船協会)

○近年の繫離船作業に係る事故事例、安全対策の取組状況に関して、資料、動画及び模型を用いて説明された。また、繫離船作業に伴う事故の傾向や防止策について、出席者から、以下、共有された。

- ・係留施設の縁金物や車止めの劣化により、剥離や粗面が生じている場合、係船索がこれらに繰り返し接触して摩耗し破断する可能性がある。このため、(施設の劣化状況の点検などを踏まえた、)係留施設の適切な維持管理は、係船索の破断防止のためにも重要である。
- ・本船側から係留施設側の作業員にヒービングラインを投げる際、本船側において、係留施設側の作業員や車両の位置の確認が不十分な場合、ヒービングライン先端に取り付けられたおもりが作業員や車両に衝突する可能性がある。このため、ヒービングラインを投げる際の安全を確保するためには、本船側および係留施設側で相互に周囲の安全確認を行うようにしている。
- ・視界が悪い夜間における繫離船作業では、目視可能な範囲が狭くなることで、事故発生リスクへの気づきが遅れることがある。

議事2 港湾における取組等について

1) 船舶の係留索の破断事象に関する情報収集とその背景について

(説明：国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所)

○船舶の係留索の破断事象に関する情報収集とその背景について説明された。また、出席者から、以下、共有された。

- ・繫離船作業中に係船索の破断のおそれがあると判断した場合には、作業員は 100m 程度離れて安全を確保している。破断係留索捕捉システム¹が導入されれば、係船索の破断が想定される場合に、作業員がより安全に退避できる可能性がある。

2) 港湾技術基準のあり方検討委員会について

(説明：国土交通省港湾局)

○港湾技術基準のあり方検討委員会での検討状況について説明された。また、出席者から、以下、共有された。

- ・船舶の大型化は世界的に進展している。大型クルーズ船等への対応のため、ドルフィンが設置されることがあるが、ドルフィンには縁金物が付いていない場合がある。係船索の摩耗を低減するため、縁金物の設置など、係船索とドルフィンの接触部を滑りやすくする工夫がなされることが望ましい。

議事3 繫離船作業に関する外国船舶への安全啓蒙活動について

(説明：国土交通省海事局)

○ポートステートコントロール(PSC)を実施した外国船舶を対象とする安全啓蒙活動(令和8年3月実施)について説明された。また、出席者より、以下、共有された。

- ・一部の外国船については、船員の教育が十分でないことに起因すると考えられる事例が見られ、係留施設側の作業員を十分に確認せずに作業していることがある。作業員にとって危険であるためPSCの取組を継続して実施していただきたい。

¹ 破断係留索捕捉システム：係留索破断時の危険な飛来経路と、作業員や車両の通行区域の間に設置する衝撃エネルギーを吸収する防護フェンス